

いじめについて考えたこと

浜田市立旭中学校 1年 大屋歩生

私には、それがいじめだったのかは分かりませんが、小学校の頃、よく嫌がらせをされていた経験があります。だからこそ、いじめを止めるために何かできないことがないか考えるようになりました。

私が三年生の時、クラスの男子の一部から嫌がらせをされていました。最初は、私自身「何でこんなことになったんだろう。」くらいにしか思っていませんでした。しかし、何日か経っても嫌がらせは終わりませんでした。「このままだとひどくなりそう。先生に言ってみようかな。」と思い、先生に、私が嫌がらせをされていることを話しました。

先生は、クラスのみなどと一人一人呼んで話をされていました。私は、「言い過ぎたかな。仕返しされないかな。」と心配でしたが、先生が話してくださったお陰で、クラスのみなどと以前のように話せるようになりました。三年生の時の担任の先生には感謝しています。でも、嫌がらせをされていた原因は、私には分からないままでした。

五年生の時、また同じような問題があって気づけば、私は誰にも相談ができなくなってしまいました。「誰にも迷惑かけたくない。」という気持ちが強かったからだと思います。それに、その時の私は、「苦しい。」と思っているのか、「別にいいや。」と思っているのかも分からなくなっていました。

三年生の頃の私は、「自分が変われば嫌がらせされることがなくなるかも。」と思い、困っている人がいたら声をかけたり、ふだん遊ばない人とも遊んでみたりと、いろいろな方法で自分を変えるきっかけを作っていました。

しかし、五年生の時の私は三年生の時の自分よりも弱くなっていたのかもしれない。「先生に言ったらもっとひどくなりそう。」「友達とか親にもなんか言いにくいし。」と、弱気なことを考えていた時、テレビで、いじめが原因で女子高生が自殺したというニュースを見ました。自殺まで追い込まれたくないからやっぱり誰かに相談した方がいいのかなと悩んでいると、三人の友達が「大丈夫？平気？」

と声をかけてくれました。私が

「平気だけど、やっぱり先生に相談した方がいいかな。」

と答えると、その友達は、嫌がらせをしていた人たちを止めてくれました。

そのことがきっかけで私は、助けてくれた友達みたいに、いじめられている人がいたらその人の助けになりたいと思うようになりました。実際、その友達のお陰で、六年生がスタートしてから現在まで楽しく過ごせています。

私は、いじめは、みんな性格が違って、得意なことや好きなものが違うから起こ

るものだと思います。だから、いじめがなくなることは無いかもしれませんが。でも、少しでも減らすためには、いじめられている人が一人で抱え込まずに相談できる“場”を作ることが大切だと思います。私は、その“場”を作れるように、自分ができることをしていきたいです。